

報告

外国人留学生の日本語学習動機

—大阪観光大学別科生へのアンケート調査結果から—

Foreign Students' Motivations to Study Japanese Language in Japan:
Survey Research at The Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism

丸山真輝* 辻田真智子* 木尾一智* 福田真弓*

MARUYAMA Naoki, TSUJITA Machiko, KIO Kazunori, FUKUDA Mayumi

This study aims to explore the students' purposes for studying abroad, their learning motives, and their learning goals at the Institute of Japanese Language, Osaka University of Tourism. The study was conducted through a survey using Google Forms. The results indicate that the students' purpose for studying abroad and their learning goals differed by region and age. On the other hand, the results also show that, regardless of region or age, many students are highly interested in Japanese language and culture. We will consider the results of these questionnaires as a reference for (planning) future educational activities for the students.

キーワード：外国人留学生 (foreign students)、留学目的 (purpose for studying abroad)、学習動機 (learning motives)、
学習目標 (learning goals)

1. はじめに

近年、日本に留学する学生たちをめぐる状況は目まぐるしく変化している。独立行政法人日本学生支援機構の調査では、出入国管理及び難民認定法が改正された 2011 年から 2019 年まで増加を続け 2019 年には留学生数は 30 万人を超えたが、同機構の調査では 2021 年 5 月 1 日現在の外国人留学生数は 242,444 人で、前年度と比べ 37,153 人少ない 13.3% 減となった。これは、文部科学省(2022)によると、「入国制限措置等のため、留学を断念・延期したことや、留学先大学等が、受入れを中止・延期又はオンラインのみによる授業となり渡航が不要になったことや、留学先国・地域の感染拡大状況や外務省が発出する『感染症危険情報レベル』が全世界的にレベル 2 (不要不急の渡航取りやめ) 以上に指定されていることなどを考慮したことが影響していると考えられます。」とのことだ。これまで、日本に留学する学生たちの動機や日本語学習の目的については、「海外日本語教育機関調査」(国際交流基金 2019) や「私費外国人留学生生活実態調査」(日本学生支援機構 2022) などで、多くの報告がされてきているが、このコロナ禍においては来日した学生たちの現状はどうか、また、近年は留学以外にも技能実習や特定活動など、外国人が来日する目的が多様化している中、留学という方法を選んだ学生たちの動機はどんなものなのかを知るためにアンケート調査を実施した。この結果により、学生たちの目的や興味が明確になり、今後の本学別科の留学生への教育活動においても参考になると考えている。なお、アンケート結果の公表にあたっては、回答者の特定につながらないように表現を工夫した。

2. 調査目的・方法

1) 調査期間

2022 年 11 月 18 日～11 月 25 日の期間に調査を行った。

2) 調査方法

* 大阪観光大学別科/日本語教育学

大阪観光大学別科の留学生を対象に、Google フォームによるオンラインアンケート調査を実施し、無記名式で回答を求めた。なお、各項目について必ず 1 つ回答を選択することとした。

3) 調査対象者 (回答者)

調査対象者は、大阪観光大学別科に在籍する留学生 123 名 (2022 年 11 月 18 日時点) のうち、89 名から回答が得られた。なお、調査対象者の国籍は、中国、ネパール、スリランカ、ベトナムであった。

4) 調査項目およびアンケート

調査項目は、①出身地域 ②年齢 ③日本語学習期間 ④日本語学習開始の動機 ⑤日本留学の理由 ⑥日本語学習の目標、の全 6 項目を使用し、各問に選択肢を設けた。本アンケートには、日本語、中国語、英語を使用した。

3. 結果

アンケートの結果は、まず、①出身地域 (漢字圏・非漢字圏)、②年齢 (10 代・20 代・30 代・40 代)、③日本語学習期間に分け、その①から③の分類ごとの④日本語学習開始の動機 ⑤日本留学の理由 ⑥日本語学習の目標、の回答を集計した。

Q1. 「あなたの出身地域は次のどれにあてはまりますか。(一つ選んでください。）」に対する回答は、「A) 漢字圏」が 61 名で 68.5%、「B) 非漢字圏」が 28 名で 31.5%であった。

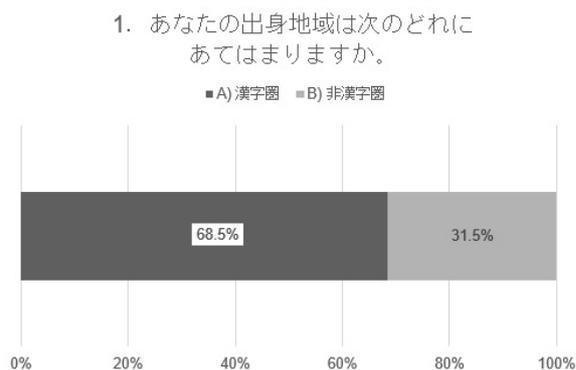


図 - 1 問 1

Q2. 「あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(一つ選んでください。）」に対する回答は、「A) 10 代」が 11 名で 12.4%、「B) 20 代」が 60 名で 67.4%、「C) 30 代」が 17 名で 19.1%、「D) 40 代以上」が 1 名で 1.1%であった。

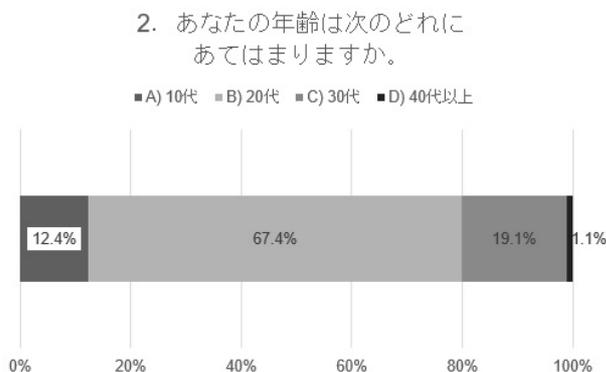
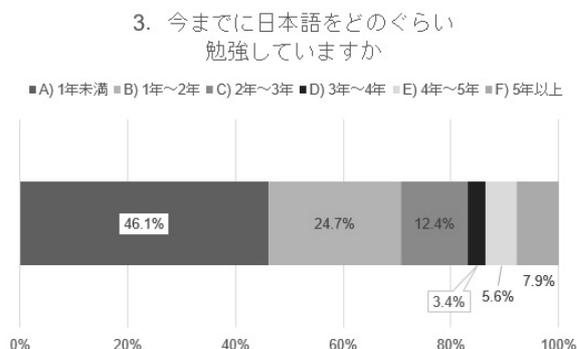


図 - 2 問 2

Q3. 「今までに日本語をどのぐらい勉強していますか。(一つ選んでください。)」に対する回答は、「A) 1 年未満」が 41 名で 46.1%、「B) 1 年～2 年」が 22 名で 24.7%、「C) 2 年～3 年」が 11 名で 12.4%、「D) 3 年～4 年」が 3 名で 3.4%、「E) 4 年～5 年」が 5 名で 5.6%、「F) 5 年以上」が 7 名で 7.9%であった。



図－3 問3

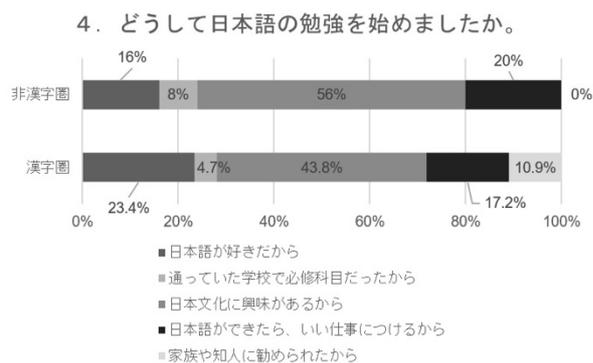
(1) 出身地域 (漢字圏・非漢字圏) による分類

Q4. 「どうして日本語の勉強を始めましたか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」に対する漢字圏回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語が好きだから」が 23.4%、「B) 通っていた学校で必修科目だったから」が 4.7%、「C) 日本文化に興味があるからであった。」が 43.8%、「D) 日本語ができれば、いい仕事につけるから」が 17.2%、「E) 家族や知人に勧められたから」が 10.9%であった。

非漢字圏回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語が好きだから」が 16%、「B) 通っていた学校で必修科目だったから」が 8%、「C) 日本文化に興味があるからであった。」が 56%、「D) 日本語ができれば、いい仕事につけるから」が 20%、「E) 家族や知人に勧められたから」は 0%であった。



図－4 問4 地域別

Q5. 「どうして日本に留学しましたか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」に対する漢字圏回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語を勉強したかったから」が 20.3%、「B) 日本文化に興味があって日本で生活したかったから」が 45.3%、「C) 日本の教育環境が魅力的だと思ったから」が 15.6%、「D) 日本の大学は学費が安いから」が 3.1%、「E) 他の国より留学手続きが簡単だから」が 3.1%、「F) 他の国に留学するより地理的に近いから」が 1.6%、

「G) 家族や知人に勧められたから」が 10.9%、「H) その他」が 0%であった。

非漢字圏回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語を勉強しなかったから」が 8%、「B) 日本文化に興味があって日本で生活しなかったから」が 68%、「C) 日本の教育環境が魅力的だと思ったから」が 8%、「D) 日本の大学は学費が安いから」が 4%、「E) 他の国より留学手続きが簡単だから」が 8%、「F) 他の国に留学するより地理的に近いから」が 0%、「G) 家族や知人に勧められたから」が 0%、「H) その他」が 4%であった。その他は、「**जापानमा पढाइ सडै रोजगारको अबस्था राम्रो भएकोले म आफ्नो भबिस्य राम्रो बनाउन म जापान आएको हु ।** (原文) (日本の就職状況は良いので、将来をより良くするために日本にきました。)」であった。

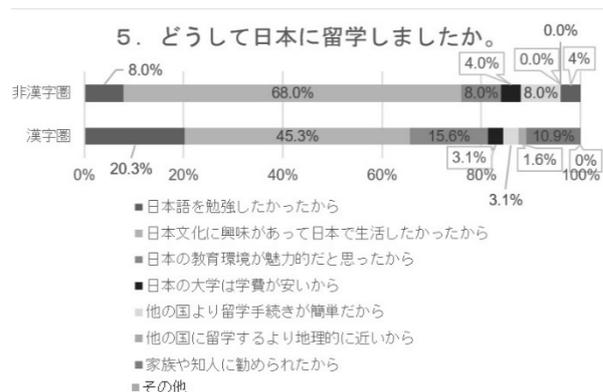


図 5 問 5 地域別

Q6. 「現在、日本語を勉強する目標は何ですか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」に対する漢字圏回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本での大学進学」が 43%、「B) 日本での就職」が 29.7% 「C) 日本語の資格取得 (能力試験など)」が 10.9% 「D) 特に目標はないが、上手になりたい。」が 7.8% 「E) 日本人の友達・恋人を作る。」が 1.5% 「F) その他」が 6.3%であった。その他は、「ABC (A) 日本での大学進学 B) 日本での就職 C) 日本語の資格取得 (能力試験など) の複数回答」、「日本の国籍を取得したいです。(原文)」「日本での大学院に入ります」「考大学院 (原文) (大学院の入試を受けたい)」であった。

非漢字圏回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本での大学進学」が 79.2%、「B) 日本での就職」が 0% 「C) 日本語の資格取得 (能力試験など)」が 4.2% 「D) 特に目標はないが、上手になりたい。」が 16.7% 「E) 日本人の友達・恋人を作る。」が 0% 「F) その他」が 0%であった。

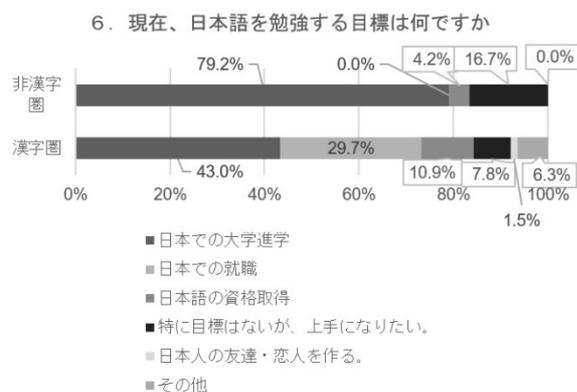


図 6 問 6 地域別

(2) 年齢 (10 代・20 代・30 代・40 代) による分類

Q4. 「どうして日本語の勉強を始めましたか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」に対する 10 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語が好きだから」が 9%、「B) 通っていた学校で必修科目だったから」が 9%、「C) 日本文化に興味があるからであった。」が 64%、「D) 日本語ができたら、いい仕事につけるから」が 18%、「E) 家族や知人に勧められたから」が 0%、「F) その他」が 0%であった。

20 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語が好きだから」が 22%、「B) 通っていた学校で必修科目だったから」が 6%、「C) 日本文化に興味があるからであった。」が 45%、「D) 日本語ができたら、いい仕事につけるから」が 16%、「E) 家族や知人に勧められたから」は 10%、「F) その他」が 0%であった。

30 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語が好きだから」が 24%、「B) 通っていた学校で必修科目だったから」が 0%、「C) 日本文化に興味があるからであった。」が 47%、「D) 日本語ができたら、いい仕事につけるから」が 24%、「E) 家族や知人に勧められたから」が 6%、「F) その他」が 0%であった。

40 代の以上回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語が好きだから」が 100%であった。

4. どうして日本語の勉強を始めましたか。

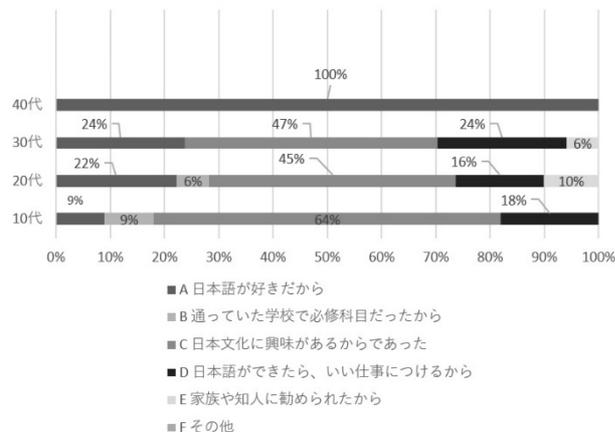


図-7 問4 年代別

Q5. 「どうして日本に留学しましたか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」に対する 10 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語を勉強したかったから」が 27%、「B) 日本文化に興味があって日本で生活したかったから」が 55%、「C) 日本の教育環境が魅力的だと思ったから」が 0%、「D) 日本の大学は学費が安いから」が 0%、「E) 他の国より留学手続きが簡単だから」が 0%、「F) 他の国に留学するより地理的に近いから」が 9%、「G) 家族や知人に勧められたから」が 9%、「H) その他」が 0%であった。

20 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語を勉強したかったから」が 27%、「B) 日本文化に興味があって日本で生活したかったから」が 48%、「C) 日本の教育環境が魅力的だと思ったから」が 18%、「D) 日本の大学は学費が安いから」が 3%、「E) 他の国より留学手続きが簡単だから」が 5%、「F) 他の国に留学するより地理的に近いから」が 0%、「G) 家族や知人に勧められたから」が 8%、「H) その他」が 2%であった。その他は、先述の Q5.と同様であるが、「**ジャパンマ**

पढाइ सङ्के रोजगारको अबस्था राम्रो भएकोले म आफ्नो भविष्य राम्रो बनाउन म जापान आएको हु । (原文) (日本の就職状況は良いので、将来をより良くするために日本に来ました。))」であった。

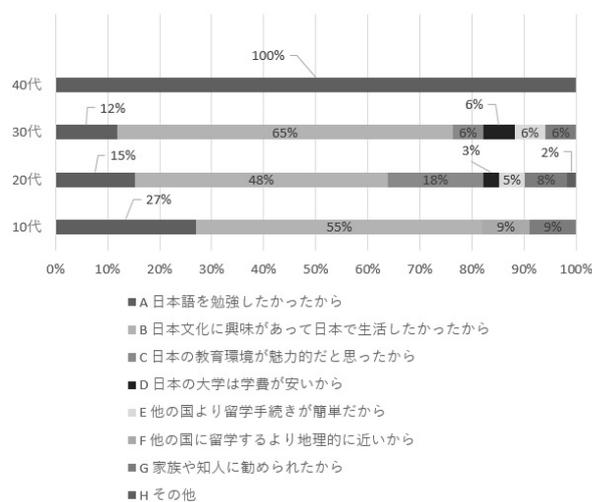
30 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語を勉強したかったから」が 12%、「B) 日本文化に興味があって日本で生活したかったから」が 65%、「C) 日本の教育環境が魅力的だと思ったから」が 6%、「D) 日本の大学は学費が安いから」が 6%、「E) 他の国より留学手続きが簡単だから」が 6%、「F) 他の国に留学するより地理的に近いから」が 0%、「G) 家族や知人に勧められたから」が 6%、「H) その他」が 0%であった。

40 代の以上回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本語を勉強したかったから」が 100%であった。

5. どうして日本に留学しましたか



図－8 問5 年代別

Q6. 「現在、日本語を勉強する目標は何ですか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」に対する 10 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本での大学進学」が 73%、「B) 日本での就職」が 18% 「C) 日本語の資格取得 (能力試験など)」が 0% 「D) 特に目標はないが、上手になりたい。」が 0% 「E) 日本人の友達・恋人を作る。」が 9% 「F) その他」が 0%であった。

20 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本での大学進学」が 57%、「B) 日本での就職」が 13% 「C) 日本語の資格取得 (能力試験など)」が 12% 「D) 特に目標はないが、上手になりたい。」が 10% 「E) 日本人の友達・恋人を作る。」が 2% 「F) その他」が 6%であった。その他は、先述の Q6.と同様であるが、「ABC (A) 日本での大学進学 B) 日本での就職 C) 日本語の資格取得 (能力試験など) の複数回答」、「日本の国籍を取得したいです。(原文)」「日本での大学院に入ります」「考大学院 (原文) (大学院の入試を受けたい)」であった。

30 代の回答者の回答は以下の通りである。

「A) 日本での大学進学」が 29%、「B) 日本での就職」が 53% 「C) 日本語の資格取得 (能力試験など)」が 6% 「D) 特に目標はないが、上手になりたい。」が 12% 「E) 日本人の友達・恋人を作る。」が 0% 「F) その他」が 0%であった。

40 代の以上回答者の回答は以下の通りである。

「D) 特に目標はないが、上手になりたい。」が 100%であった。

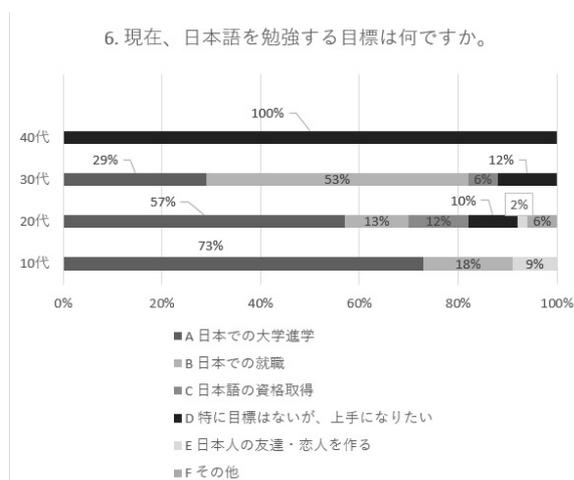


図-9 問6 年代別

4. 考察

(1) 全体

上記の調査結果から、大阪観光大学別科に在籍する留学生の出身地域別、年代別の日本語学習の目的、日本への留学目的、現在の目標が明らかになった。出身地域、年代に関わらず、日本語や日本文化への興味が高い学生は多い。これは国際交流基金の「2018 年度海外日本語教育機関調査結果」の内容とも一致している。大阪観光大学別科では今年度より「日本事情」の授業を新たに開講したことで、学生たちのニーズにうまくマッチしていることも分かった。また、今回のアンケート対象者は全員がアジア圏の学生であったが、「F)他の国に留学するより地理的に近いから」という地理的な理由で日本に留学した学生は少ないことも分かった。

(2) 出身地域別 (漢字圏・非漢字圏別)

地域別で見ると、日本語の勉強を始めた理由について、漢字圏には「E)家族や知人に勧められたから」を選択している学生がいたが、非漢字圏にはおらず、結果に地域性が見られる。日本留学の理由も同様に、「G)家族や知人に勧められたから」を選択した学生は非漢字圏にはいなかった。漢字圏では、日本語学習の動機や日本留学について、家族や知人の影響が大きく、非漢字圏ではそうではないことが分かった。

また、現在の日本語学習の目標として、漢字圏では「B)日本での就職」を選んでいる学生が多いのに対し、非漢字圏では就職を選択した学生はおらず、全体の約 80%が大学進学を目標としていることが分かる。また、「C)日本での資格取得」を目標としている学生は漢字圏では 7 人で 10%を占めているが、非漢字圏では 1 名のみであった。これも就職を目標としている漢字圏出身者が多いことと関係しているのかもしれない。また、「D)特に目標はないが上手になりたい」という理由で、現在日本語を勉強している学生が漢字圏、非漢字圏ともに存在した。特に非漢字圏では 4 名 (約 16%) となっている。

(3) 年代別 (10 代、20 代、30 代、40 代別)

年代別で見ると、日本語学習を始めた動機については、年代に関わらず「C)日本文化に興味があるから」「A)日本語が好きだから」が多く、やはり日本語、日本文化への興味が日本語学習へのモチベーションになっていることがうかがえる。また、「D)日本語ができれば、いい仕事につけるから」という回答も全ての年代を通して高いことが分かる。一方、「B)通っていた学校で必修科目だったから」については、10 代と 20 代では、それぞれ 1 名と 4 名が選択しているが、30 代以上では 1 人もいない。これは、各国における日本語教科の扱いが年代によって変化してきていることを表すものかもしれない。今後、各国の中等教育機関で日本語教科が導入されれば、

日本語学習者、日本留学が増えていく可能性もある。

日本留学の目的についても、どの年代においても「A)日本語を勉強したかったから」、「B)日本文化に興味があって日本で生活したかったから」と回答した学生が多く、特に「B)日本文化に興味があって日本で生活したかったから」は、どの年代においても、半数ほどが選択している。「C)日本の教育環境が魅力的だと思ったから」については、20代だけが高い数になっており、20代の学生たちは教育環境を重視していることが分かる。

「D)日本の大学は学費が安いから」、「E)他の国より留学手続きが簡単だから」、「F)他の国に留学するより地理的に近いから」などの留学条件に関する項目は選択した学生が少なく、純粋に日本語・日本文化への興味から日本留学を決める留学生が多いことが分かった。

現在の日本語を勉強する目標については、10代・20代では「A)日本での大学進学」が圧倒的に多いのに対し、30代では「B)日本での就職」が最も多くなる。今回の調査では、学生たちの最終学歴を問うていないため、確かなことは分からないが、恐らく30代以上では留学した時点で大卒資格を有している学生も多いのだろうと考えられる。

5. おわりに

外国人の来日目的が多様化する中、留学を選んで当別科へ日本語学習のために来た学生たちに動機に関するアンケートを行ったが、このアンケートから学生たちはその多くが日本での大学進学を目的としており、漢字圏では家族や知人の勧めによるところが大きいことが明らかとなった。また、年代を問わず、日本文化への興味が日本語学習のモチベーションとなっていることから「日本事情」の授業が学生の今後の日本語学習を活性化させるものとなることが期待される。

一方、本来なら、国籍や母語別に分けたいところであったが、アンケート対象者のうち、ベトナム人が1名、スリランカ人が2名だったことから、国籍や母語別で問うてしまうと、無記名のはずが個人を特定してしまう。そのため、国籍や母語ではなく、漢字圏か非漢字圏かで分けてみたが、それではより詳細な特徴はわからない。もう少し多くの国籍で数の偏りがなければ違う結果が得られた可能性もあった。学習歴別では細分化されすぎ、各年数別の回答数が少なすぎ、検証することができなかった。回答者の分類方法をもう少し工夫する必要があった。『令和3年度 私費外国人留學生生活実態調査』のように、出身国・地域別の回答者数の内訳はあるものの、データを全体で集計すればどの回答かを特定することはできなくなるので、個人を特定されないための解決策の1つとなるだろう。

また、年代別はデータの数が少ないので、分析するのが難しい。JLPTの取得などレベル別でのデータも今後取ってみるといいかもしれない。また、問4の「どうして日本語の勉強を始めましたか。(最もあてはまるものを一つ選んでください。)」は、全5択ではあるが、回答者自身、納得のいく選択肢であったかどうか吟味すべきことと、その他を設け具体的に記述してもらい、より学生たちの話が聞けるような形にすることも考えられる。

本調査が、学生がどのような興味関心を持って日々日本語学習をしているのかを知り、どのようなアプローチで日本語学習をサポートできるかを考える一助となるよう役立てていきたい。

【謝辞】

本報告の作成にあたり、アンケートの英語訳を監修して下さった大阪観光大学の佐藤晶子教授に深く感謝します。また、中国語訳については大阪観光大学別科の孟昭輝さんに多大な協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。

【引用・参考文献】

「外国人留學生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について 文部科学省 2022-3-30

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm (参照 2022-11-26)

2021 (令和3) 年度外国人留學生在籍状況調査結果 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO) 2022-3

<https://www.studyinJapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2021.html> (参照 2022-11-26)

2018 年度海外日本語教育機関調査結果 (速報値) 独立行政法人 国際交流基金 2019-10-8

<https://www.jpf.go.jp/j/about/press/2019/dl/2019-029-02.pdf> (参照 2022-11-26)

令和 3 年度 私費外国人留学生生活実態調査 独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO) 2022-9

https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2022/10/Seikatsu2021.pdf (参照 2022-11-26)